

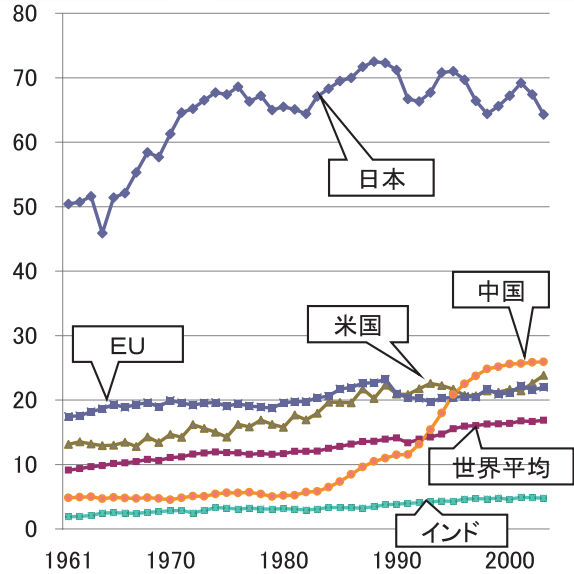
# 第I部 日本における魚介類消費の現状概説

## 1. 水産物消費の動向

### 国別年間供給量の推移

- ・ BSEや鳥インフルエンザの影響、また欧米の健康志向、中国の経済発展等により、世界的にみると水産物の需要は年々増加しています。
- ・ 国民一人当たりの供給量をみると、最近30年間で中国は5倍、EU、米国は1.5～2倍の増加となっています。
- ・ 世界各国で魚食はブームとなり、世界中の国々で、人々が魚を食べ始めました。日本食（和食）レストランは増加しており、各国で回転寿司の人気は高く、「Sushi」という言葉も定着しています。

●食用魚介類における国民1人1年当たりの供給量の推移 (kg/人年)



水産庁平成20年度水産白書より  
資料：FAO「Food balance sheets (1961-2003)」(日本以外の国)、農林水産省「食料需給表」(日本)  
注：1990年以降集計方法が変更となったため、1989年以前と1990年以降とは連続しない。

### 国民一人当たりの供給量

- ・ 人口100万人以上の国の中で、国民1人当りの魚介類供給量は、日本はトップクラスですが、現在世界第3位となっています。
- かつて日本は世界一の魚介類供給量でしたが、世界の魚食ブームにより、ポルトガルや韓国のように供給量を増加させている国がある一方で、日本では供給量が減少しています。

●1人当たり食用魚介類供給量 (2009年) (kg/人年)

